

U. S. S. R.

■最近のソ連女子サッカー事情■

今年、ソ連に女子サッカー連盟が発足し、その会長にレフ・バルタノフ氏が就任しました。ソ連初の女子サッカーチームは、1960年代末に誕生しましたが、「サッカーは女性に有害だ」とされて、解散させられてしまいました。しかし、時代は変わり、現在はソ連各地にサッカーの愛好者が増え、また、勝利のためではなく、自分たちで楽しむための同好会型チームも多くできました。全ソ労組スポーツ協会も彼女たちの活動を奨励しています。そんな中でも新会長レフ・バルタノフ氏が監督を務める「テクスチリシチク」は女子サッカー界のリーダークラスで、女性従業員2000人を擁する大企業のクラブチームで、1986年に結成されました。1987年3月には、初めて公式の全ソ女子サッカー大会が開かれ、「テクスチリシチク」が優勝しました。その後この大会は恒例化し、ほかにもいくつか大会が催され、女子サッカー人口は徐々に増えています。しかし、ルールは男子と同じで、女子選手はボールがくると手で胸をかばい、それがハンドのペナルティーになるなど、女子には不適当なものがあります。今後はこの様な点を配慮しながら、新しいルールを作成することが必要でしょう。

〔APN〕

中国 China

■汗もお金も惜しみません■

中身よりも外見、というわけでは決しないのですが、今、中国の若者たちも、スリムなボディづくり、汗とお金を惜しまずガンパッテています。

北京市の西北部にある首都体育館内の一室に設けられた「健身クラブ」には、各種器械類がそろっていて、ここに通ってガンバレ減量効果バツグン。もやし青年も筋骨たくましい。筋肉マン、にということ、月に50元という高額クラブ費にもかかわらず、入会者が、開設1カ月で100人を超す盛況です。50元といえば、中国の平均的な労働者、職員の月給のおよそ半分。器械類はアメリカから直輸入ということ、こんな法外な値段になってしまったそうです。汗びっしょりになってスリムになり、それでいい相手を見つけた。それがここにきている若い女性たちの生きがいようです。特に、レオタード姿の先生から、きびしくしこかれる彼女たちを見てみると、あたら青春を、労働ならぬ美容に汗を流すと思わぬでもありませんが……。

もっとも、健康な体はすべての基礎ですから、こうしたクラブが大いに普及し、手軽に健康づくりがやれるようになるのはよろしい。ただ、50元は余りにも高すぎる。

〔人民中国〕

英国 United Kingdom

■女性のウエイト・トレニングとは■

英国のフィットネス雑誌「ストレンクス・アスリート」(4・5月号)の中で、女性とウエイト・トレニングについて、こんな記事が書かれています。

「基本的には、女性も男性と同じ方法でトレーニングできる。しかし、プログラムは決して同じものを使ってはいけない。男性と同じような内容でやっても、彼女たちはすぐにあきてしまったり、体に負担がかかりすぎてけがをしてしまったりするからだ。

まずさしあたっては、腕、肩、背部のトレーニングプログラムは考える必要はない。女性はバスト、脚、ヒップ、ウエストラインといったところにしか興味がないのだから。どうしても注意を要する部分でない限り、余分なところに彼女たちのエネルギーを使わせないこと。女性の体には大きな抵抗をかけるより、パラエティに富んだプログラムを与えた方がよいのだ。早い話が、彼女たちを楽しませることが最も重要なことなのだ。そして彼女たちを指導している間は、寛容な心と忍耐の精神を常に忘れないことだ」

さて、あなたはこの記事を読んで、どのようにお感じですか。